

西山ゆう子獣医師セミナーレポート「日本人の意識に思うこと」

昨年、12月23日に東京日暮里でWan's Tail 第1回公開セミナーとしてアメリカ・ロサンゼルス在住の獣医師、西山ゆう子先生の「アメリカの獣医師と考えるペットの絆」というテーマのセミナーが開催されました。

しつけ、不妊手術、繁殖、遺伝病、そして私たちの活動で今まで以上にもっと深く考えていかなければならないシェルターレスキューのあり方、虐待、安楽死、地域ネコの問題等、4時間という時間では物足りなく感じるほど内容は多岐に渡って大変充実しており、特にペットの繁殖、不妊手術やしつけに対する意識が一般飼い主に浸透しているという点では日本における一般レベルの意識の低さを痛感させられます。

「ペットブーム」と言われる近年、安易に犬や猫を飼う飼い主が急増していますが、それに比例するかのよう血統や遺伝病をまったく無視し、簡単にペットの繁殖を考える飼い主も増加の一途を辿っているように思えます。

西山先生は「そもそもが近親交配など無理な交配を続けて繰り返して確立されてきた血統が純血種。遺伝学的に遺伝子タイプが非常に類似していて当たり前。遺伝病のほとんどが劣性遺伝のため然るべき検査を受けなければキャリアであるかどうか判明しない」と、勉強もせず専門的な検査もしない安易な繁殖がどれだけ危険性が伴うかを認識すべきだとおっしゃっていました。現在判明しているだけでも遺伝病は400種以上になると言われており、その数は年々増えていっているそうです。

確かに、「交配受付ます」「子犬買い取ります」等、怖いもの知らずと言うか無知と言うか、何とも情けない限りですが繁殖を促すような広告がネット上や実在するペットショップの店頭でよく目にするようになってきました。こういう広告に踊らされて「生ませなきゃもったいないんじゃないか」と『命ある動物』という事実を通り越してお金を生み出してくれる『物』のような存在になり、杜撰な繁殖を繰り返す人も少なくはないですし、こういったお金の踊らされる安易な気持ちではないにしろ、「かわいいから」というだけの気持ちでも安易であることには変わはありません。それに「貰い手があるから計画性がある」というのも同じです。

もし、私たちの周りにそういう安易なことを考えている飼い主や無責任に繁殖を勧める獣医師がいれば、一人一人が勇気を持って現実を訴える努力をすることにより処分されたり、売買される不幸な動物を一匹でも減らすことが出来るのではないかと思います。

繁殖を考える前に必ず考えていただきたいのが不妊手術。

アメリカでは不妊手術をしない飼い主は「教養レベルや所得が低い」と見なされます。

一般的には飼い主側から手術のメリット・デメリットについてや日程についての相談があるといえます。

その不妊手術が一般に推奨される理由として下記の4点が挙げられています。

『医学的な理由』

- ・多くの病気を予防できる
- ・慢性病がコントロールできる
- ・病気が治りやすくなる
- ・発病が遅延する(ウイルス性疾患など) 等

『行動学的な理由』

- ・性格が穏やかになる
- ・感情が安定する
- ・テリトリー意識が減少する 等

『社会的な理由』

- ・訴訟社会のアメリカではもしもの時に不利である 等

『遺伝学的な理由』

- ・自家繁殖の問題
- ・遺伝病を次の代に受け継がせない 等

そして、何よりも「ペットの数が有り余っている」という現実です。絶対数を減らす努力なくして不幸な運命をたどる動物たちの数を減らすことはできません。

それは日本やアメリカだけに止まる問題ではないのではないのでしょうか。

一人一人が現実を認識し、心がけて行動するだけでも一歩ずつ着実によい方向に向かっていけるはずですよ。

今回は繁殖と不妊手術の話をさせていただきましたが、その他の内容もとても勉強になり、考えさせられる講演内容で、このような素晴らしいセミナーは一般の方々にもどんどん参加し一緒に勉強していただきたいと思います。

アークスタッフ ヨシモト

Remembering old Friends who have passed away 思い出に残るアークの友たち

Yowlie

Toby

Chibi

Bella

Chacha

Lisa

Cassey

Akemi

Jaspar